

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201146		
法人名	社会福祉法人 鶴亀会		
事業所名	グループホーム龍ヶ岳		
所在地	熊本県上天草市龍ヶ岳町大道158番地		
自己評価作成日	平成28年9月20日	評価結果市町村受理日	平成28年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方の、その人らしい尊厳なる姿を大切にしています。くつろげる場所の確保と、混乱せずに済む心遣いをしています。また1ヶ月にお一人づつ、生活改善月間を設定し、スタッフ全員で取り組み生活向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしく」を理念にして、静かに、ゆっくり、さりげなく、嫌な事はしない支援のもと、入居者一人ひとりの「今」の思いに合わせた穏やかな生活が継続されている。地域の過疎化の中、母体特養施設が開催する様々な行事で地域の人々と一緒に楽しんだり、施設を利用する知り合いの面会に行く等交流の機会が持たれている。習字や絵画などのクラブ活動は、職員が特技や趣味を生かして担当し、一緒に楽しんでおり、作品の数々は掲示されホームの優しい雰囲気づくりに活かされている。災害訓練は地域に密着した視点を重要視しており、市消防署や地域消防団と共に法人施設全体が連携を図った訓練が行われていて、地域の人々の安心にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して、具体的なケアについて意見の統一を図っている	理念の「その人らしく」と、「意向に沿ってさりげなく」をモットーに、入居者の「今」に寄り添う実践が図られている。毎日の朝礼時は、ケアの内容が理念に沿った支援になっているかを確認し合ったり、新聞や地元の情報などを日々の活動に活かすために共有して、今できる事、安心・安全の生活が継続されている。	外部評価当日、入居者のゆったりと静かに穏やかな表情で過ごす様子が見られたが、一人ひとりの持つ能力に注目したアクティブな日中活動の充実を図る等、「その人らしさ」を深める実践にも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りには参加していないが、獅子舞や子ども神輿の訪問をお願いし、来ていただいている。	入居者と地域の人々の高齢化やホームの立地条件も重なって、近隣との日常的な交流に困難を来している。例年通り、保育園児の訪問を得て一緒に七夕飾りを作ったり、秋祭りの子供みこしと獅子舞保存会の来訪は続けられている。敷地内の母体特養施設の行事には入居者と職員で参加し、地域の人々と共に楽しむ場が持たれている。また、ホームでは認知症サポーター研修の実習を受け入れていて、それを機に、実習生と談笑したり一緒に菖蒲園見学に出かける等の新たな交流が生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の成果を地域の方に伝える場は、今のところ運営推進委員会の場以外にない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。	2カ月1回、地区代表、元市消防指揮隊長、行政、家族代表の出席を得て開催されている。会議では、「職員研修」や「ホームの夜間の様子」について等を議案として質疑応答が行われ、理解と協力を得てホーム運営に活かされている。施設長からは、ホーム運営に必要な、国・県・地元などの情報報告も行われ、情報の共有化が図られている。	会議へは行政からの出席が得られない事があるが、欠席時の議事録を見てもらいコメントを求める等、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会以外では、市の担当者と連絡を取り合うことは少ない。 制度解釈に関する質問を受けてもらう程度。	市高齢福祉課から会議の出席を得、会議開催日に外部評価の結果説明を行う等、ホームの運営状況を伝えている。今後、地域の過疎化や人材不足など運営に関わる課題が加速する事が予測されており、市との協力関係は必須のものと考えられる。今後の更なる連携に期待したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が屋外に出たい様子を察知したら、押し止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、一緒に行く等、安全面に配慮の上自由な暮らしを支えるようにしている。	その人らしさを大切に実践のもと、夜間は入居者に不快感のないセンサーを用いる等して、身体拘束は行われていない。身体拘束と法令遵守や言葉遣いについての研修は、年間研修に必ず予定されている。ロールプレイによる研修等で、入居者と職員の「ありがとう」と「してやる」の関係性について学ぶ機会が持たれている。また、入居者と職員との関係において馴れ合い傾向が懸念されており、優しさを持つ天草弁を用いた話しかけ等の工夫をして、スピーチロックのないコミュニケーションが検討されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを実施し、高齢者虐待防止法の遵守に向けた取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、事業所では研修していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ出来るだけ丁寧に説明している。 重度化や看取りへの対応、利用料金等については特に詳しく説明し、同意を得ようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。 また必要なら家族宅へ訪問し、要望を聞くようにしている。	家族の訪問が増えていて、直接要望を聞く機会となっている。入居している間は本音を言わない家族がいる事から、退所した家族の訪問も行い、本音を引き出して運営に反映させるための努力も見られた。また、職員のよかれと思う配慮は、満足する家族とそうでない家族もいる等、直接話し合う事の大切さと個別対応の必要性を再認識し、ホーム運営に活かしている。毎月の支払いは、面会が途絶えない様にとホームに出向く家族が多く、その際も話し合う機会とされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の研修会(月一回)の他、随時話し合う機会を設けている。	ケアについての提案は、本人の了解があればまず実践してみる方針のもと、管理者は各職員の個性や特技、経験の長短などを全員で認め合って、職員の些細な思いや言いにくい事なども言い残しが無いように配慮して話し合う場づくりを図っている。個々の入居者の希望への対応策、休暇希望、同業者との交流会や研修会出席など、ホーム運営に関する事は全員で検討して実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行なっている。 労働環境も、本人の意向を踏まえ資質を活かせるよう検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を行い、外部の研修にも職員各自の習熟度に応じて参加し、研修報告の場も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域での連絡会があり、交流会・スタッフ研修を実施して質の向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、必ず本人と面談し、心身の状態を確認の上本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れてもらえるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めていることを理解し、事業所としてどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に対応すべき相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他事業所のサービスにつなげる等の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側、という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るよう、場面作りや声掛けをしている。利用者から「お互い様」という言葉がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族の思いにも寄り添いながら、日々の暮らしの情報共有に努め、利用者と一緒に支えるために支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者各人の行きつけの商店や美容院に出かけ、知人との会話が出来るよう、出かけて行く機会を作っている。希望する方が少なくなった。	地域柄、併設の母体特養施設の利用者に入居者の知人も多く、入居者の希望に応じて訪問している。家族の協力のもと年末年始や盆の外泊・外出、馴染みの理美容室へ出かけたたりしているが、外出が減少傾向にあり、今後も母体施設との関係づくりを密にした新たな馴染みの関係づくりに期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について、職員相互で情報を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、ご家族からの相談に乗っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、把握に努めており、希望・意向があった場合にはすぐに記録するようにしている。	職員は、入居時の情報をもとに、入居者の「今」を大切に思いや意向の把握に努めている。本人の要望が少ない時は、家族から情報を得ている。「カレーは嫌」「梅干しが好き」「コーヒーを飲みたい」等その時々意思表示は、記録に残して日々のケアに活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時から、本人・ご家族から聞き取りを行っている。また本人から聞いた情報をすぐ記録するノートを作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、出来ないことより出来ることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には日々の関わりの中で意見・要望を聞き、介護計画に反映される様にしている。 アセスメントを含め、職員全体で意見交換を行っている。	毎月のハガキや年賀状で、面会要請と共に一人ひとりの近況報告をして家族と途切れない関係づくりを図り、家族の意向確認に努めている。担当制のもと、細やかに漏れのない日々の記録に重きを置いて、毎月のモニタリングと近況報告に活かしている。特に入居当初は1週間ごとのモニタリング及びサービス担当者会議の開催等で、現状に即した計画とする取り組みを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各人の日々の暮らしの様子や、本人の言葉を記録しており、職員は勤務前にそれを確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、区長、消防団指導隊長と意見交換する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	複数の医療機関と連携を保っている。ご家族と連携し通院介助を行ったり、往診をお願いするケースもある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に状態変化に対応した支援を行えるようにしている。看護職員不在時でも、電話連絡での指示を受けて対応が可能。	本人と家族の要望により、かかりつけ医及び協力病院への受診支援と医療連携が図られている。家族へは受診予定日や受診結果を報告していて、家族アンケートからは満足度の高い事が伺える。しかし、良かれと思って行っていた職員のみによる受診支援に対し、家族の「一緒に行きたい」の希望があり、家族同伴の受診も行われている。家族へ配慮する支援が、職員の思い込みもある事を踏まえ、家族との話し合いの必要性が再認識されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人に関する支援情報を医療機関に提供し、3日に一度は職員が見舞うようにしている。 またご家族とも、本人の回復状況等を情報共有して速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに対する方針を定め、入居時にも意思確認を行っている。	入居時に、終末期のあり方について同意書を取り交わして、家族の変化に応じて再確認する仕組みとなっている。地域包括ケアが推進される中、看取りケアは当たり前として継続するホーム方針となっている。終末ケア実践に際しては、病院・本人・家族・ホーム・母体施設の看護体制などと協力体制を組む必要があると共通認識されている。	職員の、看取りケアのスキルアップに対応する取り組みにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを掲示し、常にイメージできるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火器の使い方等、定期的に行っている。	地域と法人施設共に、災害対策に困難を伴う立地条件にある。数年前に、地域を含めた大掛かりな火災訓練を行い、裏山を超えた場所に水源が確認され、施設と地域住民の安心に繋がっている。地元採用の職員が多く地区の消防団に属していることから、地域に密着した災害時や後の活動が期待されている。	今年度、市に於いて地震対策についての会議が予定されていて、施設長も出席する予定があり、今後の災害対策の充実に更に期待が持てる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助・介助時にも、まず本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けたり、自己決定がしやすい言葉の掛け方をしよう努めている。	一人ひとりに適した声かけと、本人の理解を得た支援を基本にしている。判断に困った時は、日々の記録にある拒否や同意の意志表示の記録を参考にしたり、家族に尋ねながら、「さりげなく」にこだわった実践が継続されている。評価当日、排泄後の手洗いの後、微笑みながら濡れた手で髪を整える入居者と、さりげなく見守る職員の姿が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状況に合わせ、本人が答え易く選び易くなるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しつつ、その日その時の本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを保てるような手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、残念ながら、利用者自身による準備、片付けはほとんど出来ない。	設立後続けられていたホームでの調理は、母体特養管理下での食事提供に変更されたが、入居者と家族からは苦情や不満はなく円滑な移行が図られている。米飯はホームで炊き、副菜類は一括して特養から配達され、適時適温の食事提供となっている。ホームでの調理の復活を視野に入れながら、行事食や鍋物・山菜料理などの日は買い出しから調理までホームで行っていて、行事予定表の書き込みや掲示された写真から楽しむ様子が伺えた。	母体特養施設の献立表を作成する管理栄養士のホーム訪問が行われている事から、好みの食事の聞き取りや盛り付けの助言などに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は利用者各人に合わせ、その場で確認するようにもしている。 本人の好物や、食べやすいものも検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者には、1日数回のおがいをお願いし、協力してもらっている。 夕食後に歯磨き等、本人の能力に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ使用の自立性を大切にしながら、紙パンツ、オムツパッド類も本人の状態に合わせて検討している。	排泄パターンに沿ったトイレでの排泄を基本としながら、必要に応じて夜間のおむツやポータブルトイレを用いて、安眠の支援に繋げている。排泄用品は基本的にホームで一括購入をし、必要時は家族に購入依頼をしている。家族と職員とで使用量の共有を図り、コスト意識や入居者の自立度の目安にしている。	必要に応じてセンサーを用いて入居者の動きに注意しながらトイレ誘導が行われている。睡眠導入剤を服用する入居者もいることから、昼と夜の生活リズムの確立を図るなど良眠への支援にも期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事、排泄、活動状況等を見直し、自然排便を促す工夫を個別にしている。 また、腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望時に入浴していただいております。入浴を拒まれる方には言葉の掛け方、チームプレイ等対応を工夫して気分良く入浴できるよう配慮している。	一人ひとりの希望に沿った入浴パターンに合わせて、毎日や二日おき等マンツーマンでの入浴支援が図られている。季節ごとにしょうぶ湯や柚子湯などが楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬の内容を把握できるよう、服薬情報をファイルしている。 また法人全体での薬に関するテストも時々ある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かせるよう、お願いできそうな仕事を頼み、職員から感謝の言葉を伝えて本人のやる気に結びつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近辺の散歩だけでなく、個々の馴染みの店や知っている場所へ出かけている。	数年前まで個々の希望にすぐに対応する日常的な外出が実施されていたが、現在は減少傾向にあり、目標達成計画には「外出を増やし入居者の笑顔を引き出す」支援が掲げられている。入居者の穏やかな生活の中で、自然環境に恵まれた敷地内の桜・つつじ・梅などの見物や母体特養施設への訪問、家族の協力による外出は行われているが、現在の状況に満足することなく、職員間で話し合いを持つ等して、笑顔の増える活気ある支援に期待したい。	評価日の数日前に、ホームの中庭などにイノシシが現れており、様々な危険性が心配されている。家族とも話し合いを持って現在行っている支援の継続と共に、時には身近に潮の香りや波音を聴く機会など作って、天草で生活している実感を持てる取組にも期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所が金銭管理することになっている利用者でも、外出時に現金を手渡し、自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族には毎月現況報告を行なっている。また、手紙や絵葉書等、利用者本人にお願いし、自筆で出したりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員間の情報交換の際でも、大声でのやりとりをさけるようにしている。 また季節感を感じていただくため、入浴では柚子湯・菖蒲湯等、献立では鍋物や山菜御膳等を行っている。	バリアフリー設計のもと、ダイニングキッチンとダイニング・居室・浴室・トイレは広い廊下で繋がり、入居者は移動し易く、職員は要望への即時の対応がし易くなっている。リビングには、大きな時計・手作りカレンダー・テレビなどが置かれ、食後などに好みのソファで職員と一緒に寛ぐ様子が見られた。また、採光はカーテンで調節され、心地よい空間づくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者と全く離れて居たいのではないが、少し距離をおいて過ごしたい、という要望にも工夫して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の好みや馴染みのある物等、生活スタイルに合わせて用意している。	居室のベッドとサイドテーブル以外は入居者で用意していて、筆筒・衣装掛け・寝具類・お気に入りの小物などが住む人の個性を感じさせる部屋づくりとなっている。「筆筒の中まで整理整頓されている」の家族アンケートが示すように、匂いの少ない清潔が保たれた個室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にとって、わかりやすい表示や方法を考え、出来るだけ利用者本人の力が活かせる工夫を追及している。 本人の能力でやれることを増やせるよう、環境整備に努めている。		